

## [ 普及事項 ]

新技術名： 新摘葉剤「ジョンカラーふじ」による摘葉作業の軽減効果

- 安全で効果の高い使用方法について - (平成8～12年)

研究機関名 果樹試験場栽培部栽培担当

担当者 森田 泉・上村大策 他3名

## [ 要約 ]

新摘葉剤ジョンカラーふじを「ふじ」の収穫予定40～50日前に 500倍で散布することで、花そう葉の30～80%と新梢基部葉に摘葉効果があり、作業時間の短縮効果は最大で40%になり、摘葉作業の補助剤としての効果が認められた。

## [ ねらい ]

リンゴの品種で、現在、安定した収益を得られる品種は「ふじ」である。しかし、この品種は着色が困難な品種で、収穫1か月前から摘葉や玉回しといった着色管理が必須作業となっている。労働環境変化、品種の偏重から十分な管理ができないままに収穫され、収益率を低下させている事例も見られる。

そこで、本剤を摘葉作業の補助剤として有効に活用して、適期に作業を終えることで品質の高い果実生産によって高収益の安定化を達成する。

## [ 技術の内容・特徴 ]

1. 使用時期は「ふじ」収穫予定から40～50日前とする。濃度は500倍、10aに400～500ℓを樹全体に散布するが、手散布では果そう葉を重点的に散布する。
2. 散布当日から2～3日の間、平気気温が20℃、最高気温が25℃になる日を選んで散布する。散布時間は、日中気温が上昇してから行い、早朝や夕方の散布は避ける。
3. 展着剤の加用で効果が促進されやすいので、通常気温では使用しない。ただし、散布予定日気温が低温の場合は、加用することで効果の安定を図る。
4. 摘葉剤として効果(黄変)は散布1週間後からみられ、2週間後で落葉は終了するので、2週間経過後も落葉しない場合は効果がなかったと判断し、手作業による摘葉を行う。
5. 摘葉効果は樹勢の強弱、病害虫の発生程度、光環境によって異なることから、安定的な効果の得るには適切な条件の下での使用とする。
6. 本剤は摘葉補助剤としての使用であり、状況に応じて手作業による摘葉を行う。

## [ 普及対象範囲 ]

県内のリンゴ栽培地域

## [ 普及・参考上の留意事項 ]

1. 弱樹勢樹や光環境の悪い場所では、過剰な落葉を生じることがあるので使用は控える。
2. ボルドー液を散布した樹は薬害が発生しやすいので使用しない。
3. 「ふじ」以外の品種で過剰な落葉が生じる場合があるので、散布時に「ふじ」以外の品種に飛散しないよう注意する。
4. 展着剤の種類によっては薬害を生じることがあるので、使用する展着剤の選択は指導機関の指導を受ける。
5. 過剰な摘葉があった樹では、連年使用を避ける。

[ 具体的なデータ等 ]



効果が現れ黄変した果そう葉

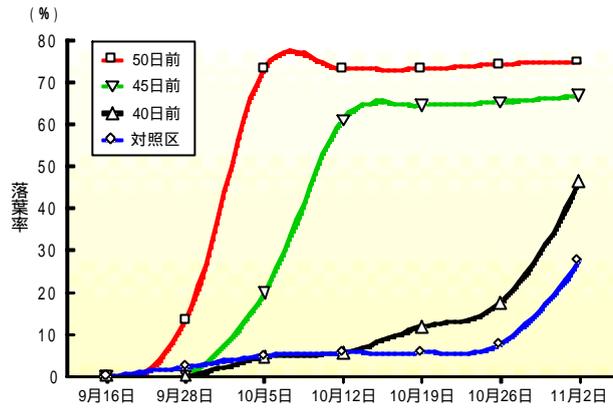


図1 果そう葉落葉率の推移 (1999)

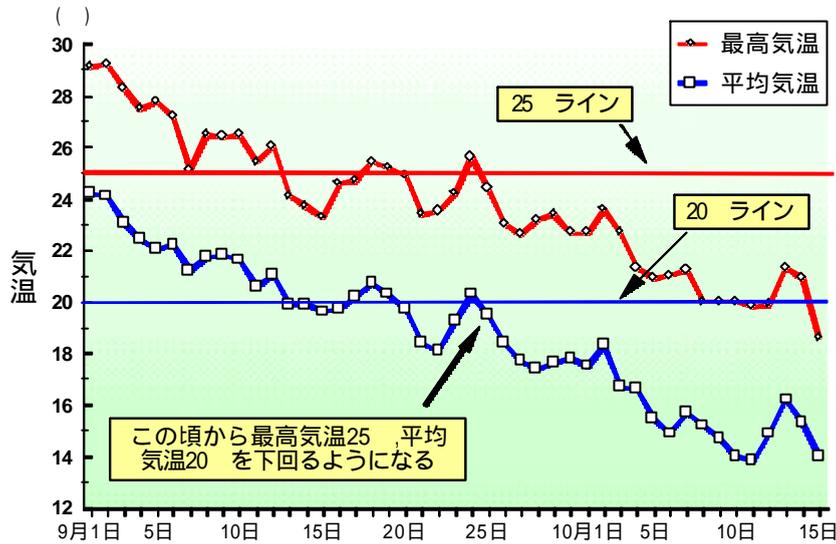


図2 県南部における散布時期の気温変化(過去10か年平均)

表1 省力効果

区分	収穫数	作業時間	時間/箱	比較
散布	114箱	21時間	11.1分	61.3
慣行	126箱	38時間	18.1分	100

表2 経済効果(10a当たり)

区分	経費内訳	合計
散布	人件費 800円 × 45.6時間 = 36,480円	45,280円
	薬剤費 6,500円(展着剤含む)	
	その他 SSの使用料等2,300円	
慣行	人件費 800円 × 76時間 = 60,800円	60,800円
差額		15,520円

[ 発表文献等 ]

なし